

企業で働く研究者

研究開発統括部 第2研究開発部 空間音響G
奥村啓



自己紹介



- 1976 京都府生まれ
 - 1999 京都大学工学部建築学科卒業
 - 2001 京都大学大学院工学研究科修了
 - 2001~ ヤマハ株式会社
 - ~2005 アドバンストシステム開発センター
 - ~2008 サウンドテクノロジー開発センター
 - 2009 半導体事業部（部門間留学）
 - ~2012 サウンド・IT開発室
 - ~2013 エレクトロニクス事業本部技術開発室
 - 2013~ 研究開発統括部
- } R&D
- } 事業部
- } 主に事業部向け
- } R&D

ヤマハの研究開発部門



- そもそも・・・

研究 ? 開発

中～長期

短～中期

難易度

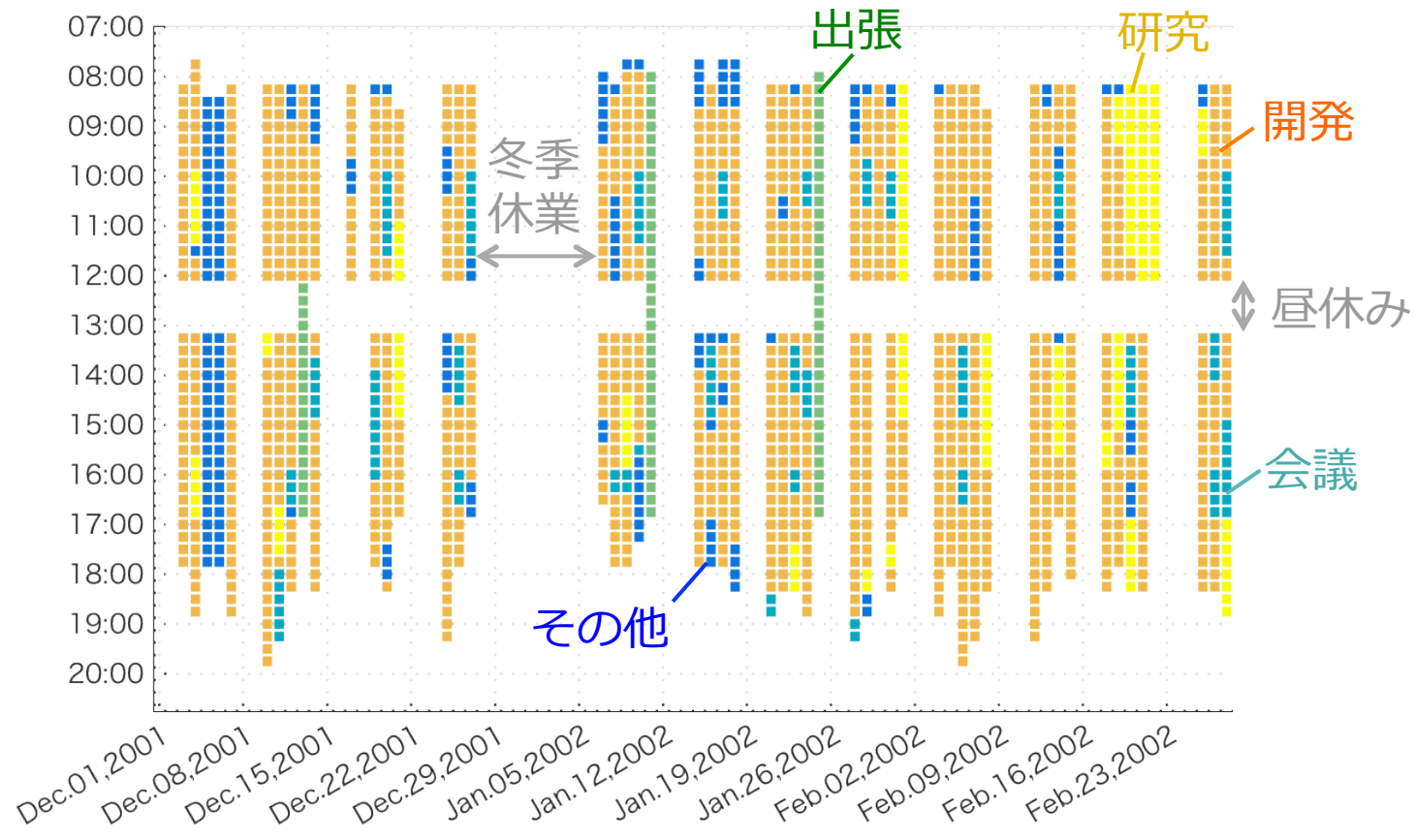
市場性

- 技術調査（研究発表会，論文，他）
- 製品・市場調査（展示会，Web，等）
- 試作・評価・デモ
- 特許調査、発明（出願）
- 技術導入・実装サポート
- 開発管理・プロジェクト管理
- テーマ探索・提案
- 会議（定例会，報告会，講演会，他）
- ...

日常業務



- 1, 7, 14年目の日常業務を分析
- タイムテーブル
 - 1年目 (2001/12~2002/02)

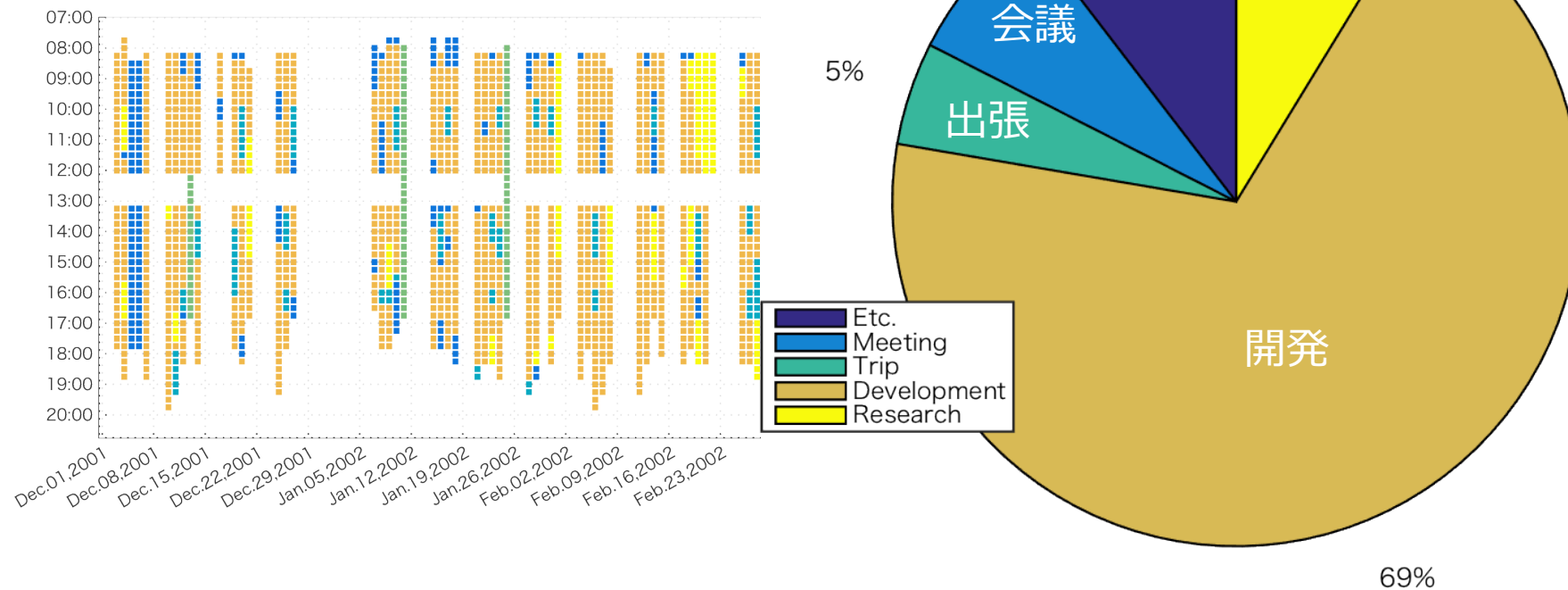


日常業務



■ 1年目 (2001/12~2002/02)

- 研究開発業務が78%
- プログラミング言語習得
- DSP実装、実験 (動作テスト)

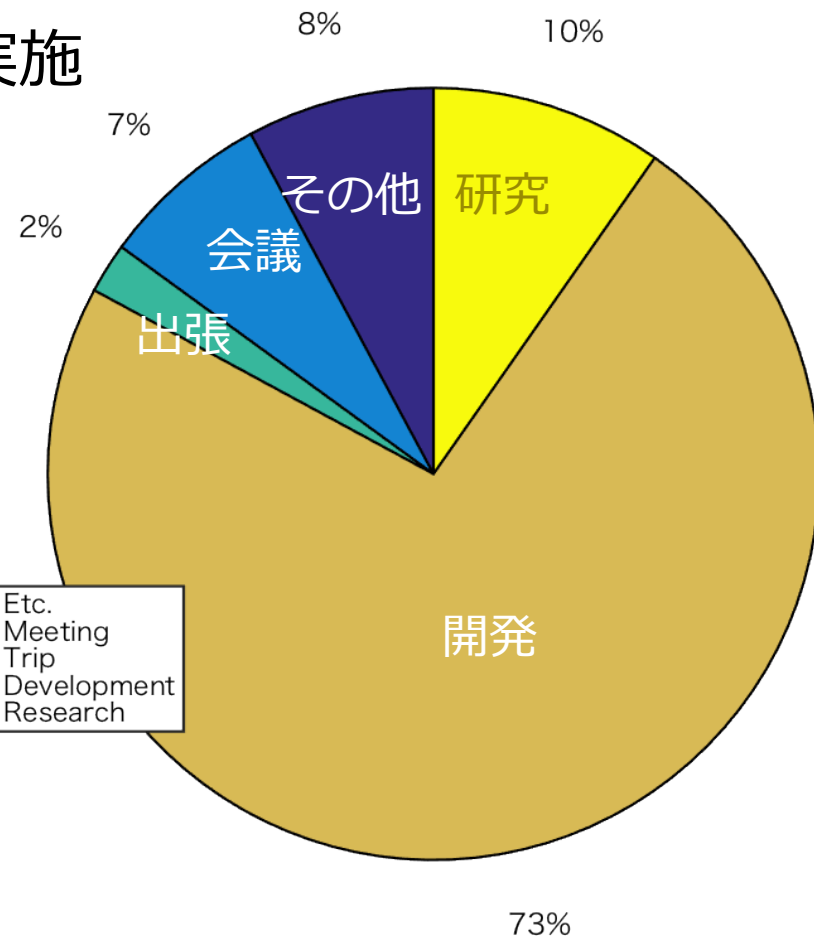
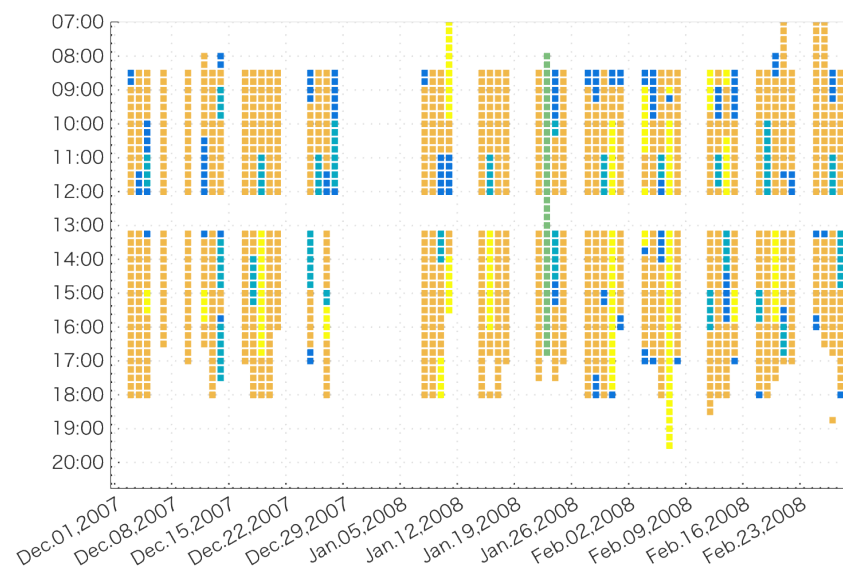


日常業務



■ 7年目（2007/12~2008/02）

- 研究開発業務が約83%
- 開発管理が増加
- 社内向けデモを頻繁に実施

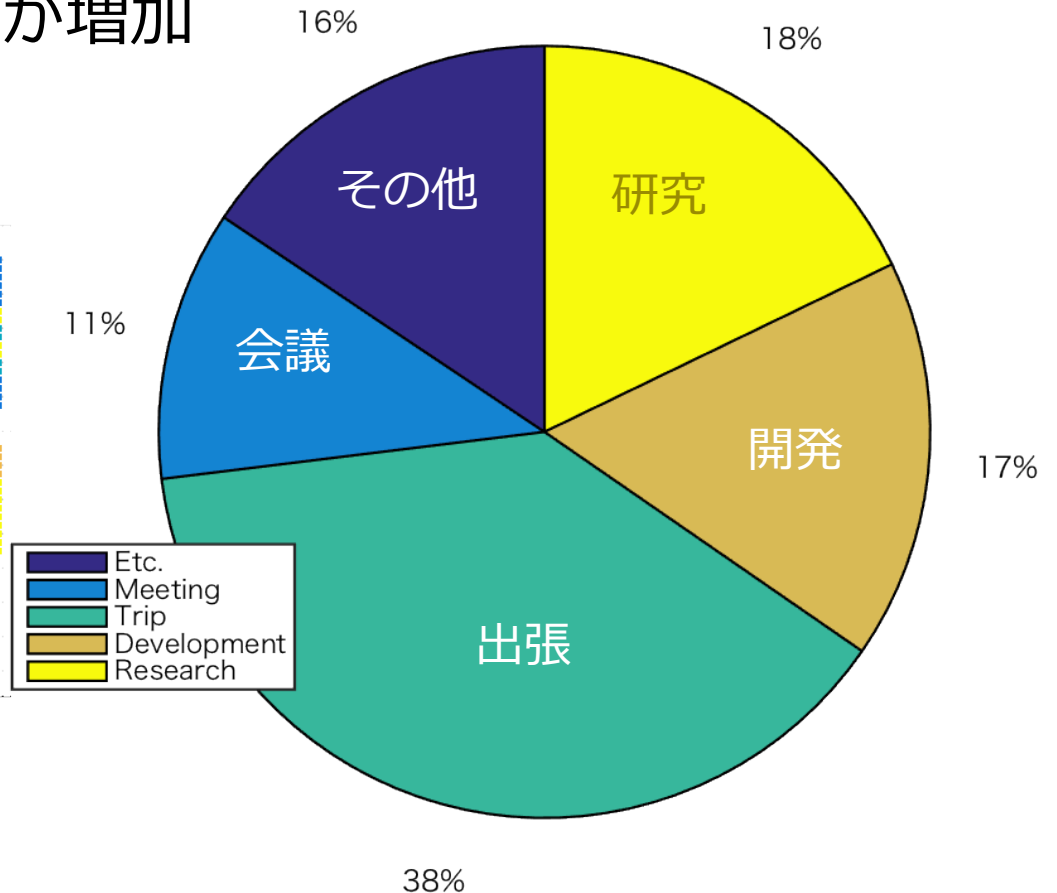
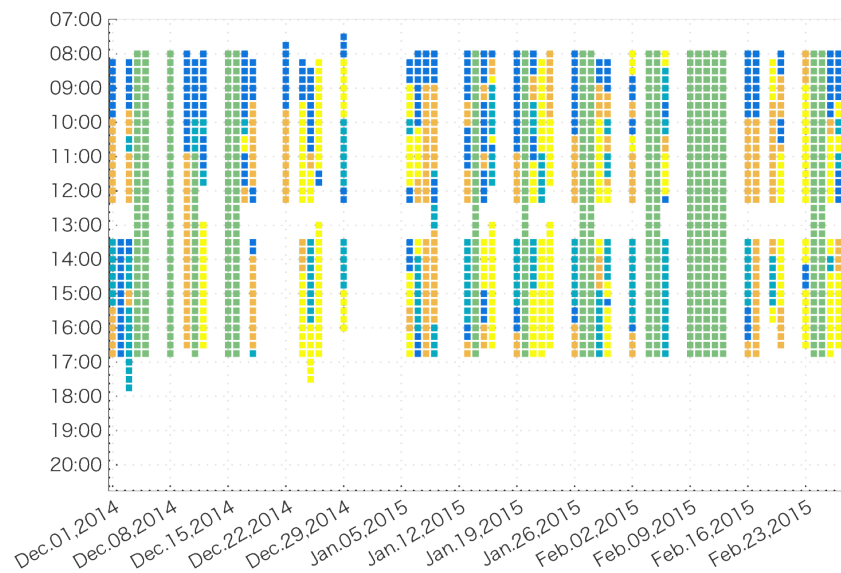


日常業務



■ 14年目（2014/12~2015/02）

- 出張（共同研究，協業，研究会など）が約40%
 - ・ コラボレーションの重要性
- 研究色の強いテーマが増加



就職方法？



■ 一緒に働きたい？

- できるだけ多くの社員と話す
- インターンシップの活用
- 会社／職場見学

■ コミュニケーション能力

- 人間関係・人脈（社内・社外）は非常に重要
 - ・ 業務以外での交流も大切
- プレゼンテーションの機会が多い
 - ・ 内容は相手に合わせて分かりやすく

■ ヤマハの場合

- 技術系は修士以上が多い
 - ・ 博士も増えつつある
 - ・ 働きながら博士号を取得する人もいる
- 学生時代からの研究を継続する人は少数派
 - ・ すぐに希望通りの業務ができるとは限らない
- 商品開発経験後に異動してくるケースが増加？

- 意欲的に・ポジティブに
- 「やります／やってみます」という姿勢が大事
 - 何事も経験
 - 希望の仕事ではなくても意欲的に
 - やらない理由を考えるのはナンセンス